

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

お茶の水女子大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	5
《本文》	6
《判定結果一覧表》	22

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

国立大学法人お茶の水女子大学は、平成 16 年の法人化に当たって「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」とのミッションを掲げ、すべての女性とその年齢・国籍等にかかわらず、個々人の尊厳と権利を保障されて、自身の学びを深化させ、自由に自己の資質能力を開発させることを支援してきた。

1. 本学のミッション

国境を越えた研究と教育文化の創造と、女性たちの夢の実現を支援するための学びの場を提供し、時代と社会の要請に応じてグローバルに活躍する女性リーダーを育成する。加えて、女性のライフスタイルに即応した教育・研究の在り方を開発し、その成果を社会に還元することで、女性の生涯にわたる生き方のモデルを提供する。さらには、男女のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、豊かで自由かつ公正な社会の実現に寄与することを使命とする。

2. 女子高等教育の継承と国際的発展

本学の教育・研究の歴史と実績を活かし、これまでに検証・蓄積されてきた知的・教育的資産を継承しつつ、女性の更なる活躍を促進するための教育・研究を推進して、豊かな見識と専門的知性を備え、国の内外で多様な活動を牽引する女性人材を育成する。

さらに、それらの教育・研究成果を国際的に展開し、グローバルなネットワークを構築する。

3. 大学院課程の充実と国際的研究拠点の形成

本学の特色ある研究を活発に推進し、研究レベルの高度化と先進的な研究分野を開拓して学術と社会に貢献するために、新たな研究組織を構築し、国際的な研究拠点を形成する。第3期中期目標期間には、特に、人の発達過程における様々な課題を解決するための研究と、人が一生を通じて心身ともに健やかに暮らすための研究を推進し、その成果を社会に向けて発信する。

同時に、得られた研究成果を踏まえた専門教育を充実させ、大学院教育の高度化・実質化を実現する。

4. 学士課程教育の更なる推進

学士課程と大学院人間文化創成科学研究科との連携により、総合的な教養を備えた高度専門職業人、つまり「教養知と専門知」、「学芸知と実践知」及び「高い公共性」を備えた社会人を養成する。そのために、リベラルアーツを基礎として、学生の主体的な選択が可能な、多様な専門性を擁する新たな学士課程を構築する。

5. 附属学校等と連携した統合的な教育組織の強化

同一のキャンパスに設置されている大学と附属学校等が密接に連携し、伝統ある教育・研究資産を活用して、生涯にわたる学びを見通した統合的な教育理念と教育・研究組織を構築する。さらに、人の発達過程における課題解決に向けた研究や、心身ともに健やかな一生を送るための研究の成果を、本学における乳幼児期からシニア世代までを通じた教育に活かし、人の生涯を通じた教育モデルとして国の内外に向けて発信する。

6. 社会的、国際的貢献の促進

企業・行政・研究機関等の外部機関や地域との連携・相互交流を更に深め、人間力強化を目指した本学ならではの教育・研究の成果を社会に還元する。また、これまでの東

日本大震災の被災地支援のための実践活動を更に深化させて、防災・減災対策や復興支援のための教育プログラムの作成、キャリア支援活動等を推進し、その成果を全国に向けて発信する。

国際的な課題解決に寄与できる女性リーダー育成のために、様々な国々との国際交流を更に促進する。アジア・アフリカ等の途上国女子教育の充実をはじめ、多くの国の女性たちの多様な活躍を支援し、平和な社会の構築と文化の発展に貢献する。

1. 明治8（1875）年に日本で初めての女性のための官立の高等教育機関「東京女子師範学校」が本学の前身として創設された。その後、144年にわたって日本の女子教育をリードし、これまでに数多くの卒業生が、学術・研究、教育、産業、行政、報道等、多様な分野で活躍する優れた女性リーダーを輩出するとともに、「グローバル女性リーダー育成研究機構」をはじめとする国際的な研究拠点の形成や、手厚い女性研究者支援プログラムによって、未来のグローバル女性リーダーの教育を推進している。
2. 生命科学、生活工学、人間発達科学の研究分野を本学の特色のある重点研究として「人が一生を通じて健康で心豊かに過ごすための研究・開発」拠点を形成するため、「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」を設置し、国内外の研究機関、企業等との共同・受託研究等や包括協定を締結して研究を推進している。
3. 大学院教育では、専門性を深めると同時に領域横断的な視野を広げるため、「大学院副専攻プログラム」を設けている。その中でも「グローバル理工学副専攻プログラム」に「Project Based Team Study (PBTs)」を取り入れていること、博士課程「生活工学」の創出に向けた奈良女子大学との「生活工学共同専攻」の設置等、先進的な大学院教育を提案し実施している。
4. 学士課程教育では、実践力を備えた学士の教育プログラムとして、リベラルアーツ（LA）教育の充実や、学際的な応用力の育成を目指した「複数プログラム選択履修制度」といった豊富なプログラムを実施している。さらに、AI、IoTを中心とした技術革新を踏まえ「文理融合AI・データサイエンスセンター」を設置し、データサイエンス・シミュレーション科学教育を全学部で開始している。
5. 平成28年度から新型AO入試として、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜改革として「新フンボルト入試」を導入・実施するとともに、海外留学に対する柔軟な対応が可能となる四学期制や、「学士・修士一貫教育トラック」を見据えた博士前期課程授業聴講制度を開始している。
6. 同一キャンパス内に、大学、附属学校（高等学校、中学校、小学校、幼稚園、いずみナーサリー）と文京区立お茶の水女子大学こども園（認定こども園を平成28年度に開設、運営を本学が受託）を擁していることから、全学的に緊密なマネジメント「オールお茶の水」体制を構築して、幼小、小中、中高、高大連携、高度な教職専門性養成プログラム等の今日的な課題に対して、学校教育研究部が媒介となり先進的な取組を行うとともに、アクティブラーニング等の探究力・活用力を伸ばす授業実践に関する校種を超えた研究を積み重ねている。
7. 大学の社会的促進では、お茶大女性ビジネスリーダー育成塾「微音塾」、「未来きらりプログラム」、「保育・子育て支援ラーニングプログラム」、「理科教育支援者養成プログラム」、「理科実験指導力養成講座」等の開講により社会人教育を推進している。また、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震に関する取組とともに、国際的貢献では、平成14年度から継続してアフガニスタン女子教育支援をはじめとするアジア・アフリカの女性・幼児のための教育支援や西アフリカ初等教育支援を推進している。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- 国際的な研究拠点の形成を構築するため、本学の強み・特色ある研究分野を結集・融合させた「グローバル女性リーダー育成研究機構」と「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」をそれぞれ設置した。グローバル女性リーダー育成研究機構は、リーダーシップ教育やジェンダー研究を推進する海外の大学・研究機関と協定を締結し、新たな概念として「アジア型の新たなリーダーシップ像」を提起する。ヒューマンライフイノベーション開発研究機構では、人間の発達段階に即した心身の健康と生活環境の向上を意図としたイノベーションを実現するため、国内外の大学・研究機関・企業等と包括協定を締結し共同研究や受託研究を進めている。(関連する中期計画 2-1-1-1、2-1-1-2、2-2-1-1)
- 理工系女性リーダーの育成拠点を構築するため、平成 28 年度に奈良女子大学と連携して、「大学院生活工学共同専攻」を設置した。「工学」の学位を取得できる大学院課程の設置は女子大学としては初めてのことであり、新たな工学の分野である「生活工学」において、女性の強みを活かした生活者の視点から諸課題を柔軟に捉え研究する能力を有する女性人材を育成している。(関連する中期計画 1-1-1-4)
- 「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」という本学のミッションに基づき、多様性を包摂する女子大学と社会の創出に向けて、これまで女性が活躍できる社会の実現を牽引してきた本学の取組として、平成 30 年度に、日本の女子大学で初めてトランスジェンダー学生 (MTF=Male to Female) を受け入れる方針を表明した。(関連する中期計画 1-3-2-1)
- 本学のミッションに基づき、若手女性研究者の継続的な研究活動をサポートするとともに、研究中断後に円滑に研究現場に復帰する機会を提供するため、本学独自の特別研究員制度である「みがかずば研究員制度」を実施している。また、子育てをしながら研究を行う学内の女性研究者を対象として研究補助者を配置する支援や、男女共同参画の観点に立ち、研究者本人又は配偶者の妊娠・出産のほか、男女を問わず研究者が育児、親族の介護・病気の看護を行う際の一時的支援(教育・研究活動を支援するための補助者への謝金支出)も実施しており、研究者のライフスタイルの多様性を尊重し、様々なライフイベントと研究との両立を可能とする研究環境を整備している。こうした女性研究者支援の取組が評価され、平成 31 年 1 月には「平成 30 年度東京都女性活躍推進大賞(教育部門)」を受賞した。(関連する中期計画 2-2-2-1)
- 新型 A0 入試「新フンボルト入試」を入学者選抜改革として平成 28 年度の導入以降、毎年多くの受験者を獲得している。この入試選考では、ものごとを深く考究する力、自ら課題を見つけてデータを集めて論理を構築する力等、知識をいかに活用できるかを問う入試としての選考方法を確立した。(関連する中期計画 1-4-1-1)
- 質の高い保育サービス・幼児教育の提供と保育所待機児童の解消を図るとともに、本学における教育・研究活動の実践と成果を社会へ還元するため、平成 28 年度から保育所型認定こども園「文京区立お茶の水女子大学こども園」を国立大学として初めて開設した。さらに、教育研究の実践の場として「お茶大こども園ラボ：幼児期の教育・保育探究プロジェクト開発」の推進や学生へのインターンシップ実施体制の整備を行っている。(関連する中期計画 3-1-4-1)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画（◆）]

- ヒューマンライフイノベーション開発研究機構を設置して、少子高齢化社会における社会的諸問題について、「こころ」と「からだ」両面からの研究・開発によるイノベーション創出、及び子ども期から老齢期までの発達の質の向上に向けた革新的・効果的施策を創出・提言する。（関連する中期計画 2-1-1-2）

- 国立女子大学ならではの重点研究領域として「グローバル女性リーダー育成研究機構」を設置する。国内外から女性研究者を招へいし、女性のリーダーシップ育成と男女共同参画社会の実現に貢献する研究教育を通じて、世界で活躍できる女性リーダーの育成機能を強化する。（関連する中期計画 2-1-1-1、2-2-1-1）

- 次世代の我が国を支える女性人材を育成するために、大学・附属学校・センター等の本学のリソースに加え、大学間連携による強み・特色の補完・増強を行い、初等・中等教育からの人材育成を推進する。特に、理系女性人材育成のため、児童・生徒だけでなく、保護者・教員に働きかけ、社会全体として女性の理系選択への理解促進のための方策を展開する。（関連する中期計画 3-1-1-1）

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、お茶の水女子大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を上げている	【4】 優れた実績を上げている	【3】 進捗している	【2】 十分に進捗しているとはいえない	【1】 進捗していない
I 教育に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある		1	1		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 順調に進んでいる		1	2		
3 学生への支援に関する目標	【3】 順調に進んでいる			2		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進んでいる			1		
II 研究に関する目標	【3】 順調に進んでいる					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】 順調に進んでいる			1		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 順調に進んでいる			3		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 順調に進んでいる					
	なし			4		
IV その他の目標	【4】 計画以上の進捗状況にある					
1 グローバル化に関する目標	【4】 計画以上の進捗状況にある		1	1		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」、3項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
<p>【M1】 博士前期課程では、高度な専門的知識と能力を有し、境界領域分野や未知の分野の学問を切り拓くことに意欲的な高度専門人材の育成を目指す。博士後期課程では、専門性を基盤として新しい科学の創成を目指しつつ、幅広い知識と視野を持ち、高度な研究能力を備えた先導的な人材を育成する。また、大学の枠を越えた連携により、科学技術創造立国の中核となる理工系女性リーダーの育成拠点の構築を目指す。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「理工系グローバル人材の育成」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
		<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 理工系グローバル人材の育成</p> <p>高度な研究力・実践力を備え、リーダーシップや主体性を発揮できる学生を育成するため、文部科学省の博士課程教育リーディングプログラムの下に設置したグローバル理工学副専攻において、異なる分野を専攻する複数の学生が超領域的な課題に取り組む自主協働研究 Project Based Team Study</p>	

	<p>を取り入れた教育を実施している。また、諸外国から採用したスタディコモンズ教員を含む学内外の教員・企業等関係者がメンターとなってチームの研究をサポートする体制を構築している。なお、このプログラムの事後評価において、大学院教育のグローバル化及び副専攻科目の大学院共通科目化を図っている点等が評価され、S 評価を受けている。（中期計画 1-1-1-2）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 生活工学分野の人材育成</p> <p>新たな工学分野である「生活工学」を担う理工系女性人材を育成・輩出し、優れた研究成果を生み出すため、平成 28 年度に奈良女子大学と連携して大学院生活工学共同専攻を設置し、ライフ・イノベーション・ワークショップ・プログラムや Project Based Learning (PBL) 科目等の教育プログラムにより、女性の強みを活かした「生活者の視点」からの工学を推進している。（中期計画 1-1-1-4）</p>	
小項目 1-1-2	判定	判断理由
<p>【M2】 高度な専門的知識を有し、グローバルに活躍する女性リーダーを養成する。近年のグローバル</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p> <p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>化、少子高齢化、目覚ましい技術の発展等の変化に対応し、深い教養に裏打ちされた高度な専門的知識を有し、強靱な知力、旺盛な行動力を持って、社会的課題の解決や文化の発展に貢献できる学生を育成することを目標とする。</p>	<p>《特記事項》</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ ジェンダー教育の拡充</p> <p>男女共同参画を推進するグローバル女性リーダーを育成するため、全学部の学生が自然科学・技術を含む様々な角度からジェンダーに関する知識を学際的・系統的に習得でき、一定の科目数を履修した学生には履修証明を授与する「全学ジェンダー学際カリキュラム」を導入している。（中期計画 1-1-2-2）</p> <p>○ 女性起業家の育成</p> <p>グローバルに活躍する女性リーダーを育成する一環として、文部科学省の次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）の下で、東京大学（主幹機関）、筑波大学及び静岡大学とともに女性起業家の育成を推進している。授業科目として「アントレプレナーへの道（入門編）」や、「アントレプレナーへの道（ベンチャー編）」等を開講するとともに、「カルティエ ウーマンズ イニシアチブ アワード受賞者招待講演会」など、国内外の女性起業家を講師とするセミナーや講演会を開催している。なお、本事業は中間評価において、4 大学コンソーシアムとして S 評価を得ている。（中期計画 1-1-2-2）</p>	

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
【M3】 国際水準での教育を実施するため、教職員の教育の質の更なる向上を目標としたFD (ファカルティ・ディベロップメント)、教育プログラム、教育環境整備を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
			<<特記事項>> (特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症の影響下での教育に関する取組として、遠隔講義システムと併用して、10年以上にわたり学習管理システム (LMS) として利用してきた Moodle を教育全般に対して活用している。令和2年度に実施した学生アンケートの結果において、オンライン授業についての満足度は学部生で70%程度となっており、安定してオンライン教育に対応できている。
小項目 1-2-2	判定		判断理由
【M4】 カリキュラムポリシーに基づき、ソフト・ハードの両面から、グローバル化に対応した教育環境の整備を行う。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「学生の海外留学促進に向けた教育体制の整備」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
			<<特記事項>> (優れた点) ○ 学生の海外留学促進に向けた教育体制の整備 実践的な英語運用力を強化するため、Advanced Communication Training (ACT) プログラムについて、3段階のレベルに応じたクラス分けを行い、最上位の学生には2

	<p>年次生対象の科目の履修を認めるなどのカリキュラム改革を行っている。また、語学研修における実践的教育や、外国語学修の拠点として設置した Language Study Commons (LSC) における授業、研修、留学準備、オンライン学習等に対する支援を行うことによって、サマープログラムの参加学生数は第2期中期目標期間の平均値 99.6 名に対して、平成 28 年度から令和元年度の 4 年間の平均値が 180.5 名と約 1.8 倍に増加している。なお、「THE 世界大学ランキング日本版 2018」では、「日本人学生の留学比率」において国立大学で 2 位を獲得している。(中期計画 1-2-2-1、1-2-2-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 外国語の学修支援</p> <p>平成 29 年度に、学内に分散していた 4 つの外国語学修施設を Language Study Commons (LSC) を中心として 1 つの建物に集約させ、外国語学修の拠点として、授業だけでなく、研修やオンライン学習及び外国人留学生との交流等、多様なグローバル人材育成に関する活動に活用している。また、LSC において学生が主体となり、授業期間の昼休みを利用して外国語交流会(語学カフェ)や外国語講座を定期的開催しており、平成 28 年度から令和元年度の 4 年間で延べ 3,000 名以上の学生が参加している。なお、LSC の年間利用者数は、平成 28 年度の 3,634 名から令和元年度には 12,103 名へと約 4 倍に増加している。(中期計画 1-2-2-2)</p>		
小項目 1-2-3	判定		判断理由
【M5】 国際通用性のある教育成果の評価指標を活用し、大学機関の相違を越えた教学成果比較を通じて、教育の質保証システムの有効性を高める。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 大学間連携による内部質保証システムの構築</p> <p>大学の教学に関わる IR の比較研究に焦点をあて、大学間の協働の場としてその共有知づくりを進める連携組織である教学比較 IR コモンズの下で、お茶の水女子大学が設計した「ALCS (Academic Learning and Cultivation Survey) 学修行動比較調査」を実施している。各大学の調査結果からベンチマークを導出し、統計的に比較分析を行って学生の学修行動特性を明らかにすることで、参加大学が実施する教育の達成状況や課題を客観的に見出すことができる体制を構築し、大学間連携的な内部質保証システムの形成を推進している。(中期計画 1-2-3-1)</p>		

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由
<p>【M6】 学修支援体制と学生生活の支援や相談に応じる体制を連携させ、学生の主体的学修を推進する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 学部・大学院一貫の学修ポートフォリオの整備 授業に関連した学修と、個々の学生の関心にもとづく広範な学習・研究の双方について自分のポリシーを明確にして、達成した成果等を記録して学びの振り返りの基盤にするとともに、それらを学生の判断によりインターネット上で公開して修学の実績を示し、対外的な説明の機会に役立てていく仕組みとして、ラーニング&スタディ・ポートフォリオ (super alagin) を開発・運用している。super alagin を学部・大学院で一貫したものとするため、平成 30 年度には博士課程においても成績評価を原則として素点で行うこととし、学修成果指標として GPA を用いる等の環境整備を進め、学士課程と博士課程のすべての学生が利用できる環境を整えている。(中期計画 1-3-1-2)</p> <p>○ 附属図書館のキャリア形成支援 学部学生を対象とした、図書館での業務体験を通じたキャリア形成支援プログラムである LiSA (Library Student Assistant) による選書ツアー、ならびに図書館におけるアカデミック・スキルズにかかる学習支援を大学院生が業務として行う LALA (Library Academic Learning Adviser) などの学生スタッフの活動を継続して支援し、学生との協働によって図書館サービスを行っている。(中期計画 1-3-1-1)</p>			

小項目 1-3-2	判定		判断理由
<p>【M7】 学生のニーズに適合し、かつ、本学の学修を実質的に保障する統合的 学生支援を行うために、女性のライフサイクルに沿った多様な学生の生活支援、 キャリア支援、キャリア教育を進める。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》 (優れた点)</p> <p>○ トランスジェンダー学生の受入体制の整備 「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」という大学のミッションに基づき、戸籍上男性であっても性自認が女性であるトランスジェンダー学生を受け入れる方針を平成 30 年度に日本の女子大学で初めて決定し、受入準備プロジェクトチームの設置、受入れに関する規則の制定、出願資格確認マニュアルの作成や対応ガイドラインの作成・公表等を行い、令和 2 年度の受入れに向けて体制を整えている。(中期計画 1-3-2-1)</p>		

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
<p>【M8】 学力の三要素 (知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性) を重視した多面的な入学者選抜の在り方について研究し、選抜方法を改善する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 多様な入試制度の導入</p> <p>学力の三要素を重視し、学力を多面的・総合的に評価する新型 AO 入試の「新フンボルト入試」において、第一次選考の一環としてプレゼミナール (大学の専門授業の体験受講及び情報検索演習) を実施している。また、第二次選考として、文系では文献や資料を活用してレポートを作成し、グループ討論や面接を通じて論理力や課題探求力等を評価する「図書館入試」を、理系では専門性に即した実験や実験演示、データ分析や自主研究プレゼンテーション等の課題から探究する力をはかる「実験室入試」を実施している。(中期計画 1-4-1-1)</p>		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
<p>【M9】 本学は女性のライフスタイルに即した支援体制を持つ特色を活かし、グローバル女性リーダーの育成、ジェンダー研究、生命科学、生活工学、人間発達科学、日本学等、大学として重点化を図る特定分野について、海外機関とも連携した世界水準の国際拠点を構築する。それとともに、多様な基盤的研究を推進する。</p>	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
		<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 国際的教育研究拠点の形成促進</p> <p>グローバル女性リーダー育成のための国際的教育研究拠点の形成に向けて、グローバル女性リーダー育成研究機構を中心として、国際シンポジウムの開催や研究者の招へい及び短期派遣プログラムの実施等を通じ、海外連携機関との活発な学生交流、研究交流を行っている。また、ノルウェー科学技術大学とのジェンダー平等、リーダーシップ、ワーク・ライフ・バランス及び生殖医療についての共同研究や、梨花女子大学（韓国）とのアジアにおける女性リーダーのモデル構築とインデックス開発（Asian Woman Leadership Model and Index）についての共同研究など、リーダーシップ教育やジェンダー研究に係る海外の大学・研究機関との連携を進めている。（中期計画 2-1-1-1）</p>	

	<p>○ ヒューマンライフイノベーション開発研究機構による研究推進</p> <p>国際的に評価される研究成果発信拠点を形成するため、平成 28 年度に設置した「ヒューマンライフイノベーション開発研究機構」において企業・研究機関等との連携を進め、各機関との連携数は、平成 28 年度の 11 件から令和元年度の 28 件へと増加している。また、国内外での学会発表・共同研究等についても、論文発表数が平成 28 年度の 57 件から令和元年度の 103 件へと増加し、国際学会等での発表・講演等を合わせた件数も平成 28 年度の 45 件から令和元年度の 68 件へと増加しているほか、ニュースリリース件数についても平成 28 年度の 2 件から令和元年度の 83 件と増加している。</p> <p>(中期計画 2-1-1-2)</p>
--	--

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3 項目のうち、3 項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 2-2-1	判定	判断理由
<p>【M10】 グローバル女性リーダーの育成及び研究の活性化のため、国内外の女子大学、官公庁・自治体、企業と連携して、国際協同プロジェクトを通じた実践的養成を進め、世界に向けた情報発信のための体制を確立する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p> <p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 学際的国際共同研究の推進</p> <p>グローバル女性リーダーの育成及び研究の活性化のため、各種シンポジウムやセミナー、ワークショップを開催し、国内外から女性研究者を招へいしている。平成 28 年度から令和元年度の 4 年間で、シンポジウム等は延べ 100 件以上開催 (参加者は約 7,700 名) し、招へいした女性研究者は延べ 176 名 (海外: 108 名、国内: 68 名) となっている。また、リーダーシップ、ジェンダー等の重点研究領域に係る学際的国際共同研究を推進し、新規・継続を合わせて毎年度 5 件以上の共同研究を実施している。(中期計画 2-2-1-1)</p>	

小項目 2-2-2	判定		判断理由
【M11】 子育て中の女性研究者支援、ライフスタイルに応じた研究者支援を継続し、研究環境を向上させる。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		
小項目 2-2-3	判定		判断理由
【M12】 研究の質を向上させるため、研究費等の学内資源について、研究への取組に応じた重点配分や研究支援を行う。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	該当なし		

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 4項目のうち、4項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
【M13】 大学と企業の連携によるイノベーションの創出、社会や地域が持つ課題解決等に向けて、企業、地域住民、自治体、行政機関等との連携を推進・強化する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 全学共通教育としての社会連携講座 女性リーダーの育成支援を目的として、包括的協定を締結した民間企業と連携し、高校生・大学生・大学院生を対象として次世代の女性リーダーの育成を支援する「未来起点プロジェクト」を立ち上げ、このプロジェクトの主軸として、附属学校生も受講可能な社会連携講座を全学共通科目「未来起点ゼミ」として開講している。(中期計画 3-1-1-1) ○ 地域との連携による女性リーダーの育成支援 イノベーションを創出できる女性リーダー人材の育成を行うとともに、地域の要望に応じた支援や人材育成を行うため、女性の採用や登用に関心を有する民間企業 19社と連携した「女性活躍促進連携講座」を大学院の授業科目として開設し、参加企業と学生のディスカッションを通じて、参加企業が自身の問題点の抽出とその解決策の検討を行うことのできる場を提供している。また、福井県との女性リーダー育成支援の包括的協定に基づき実施している社会人女性リーダー育成プログラム「未来きらりプログラム」において「製造業リーダーコース」等を新設し、令和元年度末までに修了生のうち 41名が管理職・リーダーとなっている。(中期計画 3-1-1-1)		

小項目 3-1-2	判定		判断理由
<p>【M14】 社会人教育の推進、特に社会人女性の勉学再開の支援とその成果の社会還元を行う。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 幼児教育・保育の社会人講座の開設 幼稚園教諭、保育士等の現職者を対象とした再学習の機会を提供するとともに、社会人の職業に必要な能力向上の機会をさらに拡大するため、文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）の一環として、お茶の水女子大学こども園及び文京区と連携・協働して大学院レベルの履修証明プログラム「保育・子育て支援ラーニングプログラム」を令和元年度から実施している。（中期計画 3-1-2-2）</p> <p>○ 社会人女性のキャリアアップ支援 企業で管理職を目指す社会人女性を支援するため、女性のエンパワーメントとリーダーシップ、財務会計・経営戦略／マーケティングなど、実践に即したプログラムを提供する生涯学習講座「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：微音塾」において、令和元年度からカリキュラムの改善や受講者の更なる拡大を目的として新たにトライアル講座を開講し、第3期中期目標期間中の受講生は2倍以上に増加している。また、アンケート調査の結果から、講座の受講後、上位職へのチャレンジに対するモチベーションが向上しており、実際に10名（有効回答数の約22%）が昇進・昇格し、うち1名が非正規雇用から正規雇用となっている。（中期計画 3-1-2-1）</p>			
小項目 3-1-3	判定		判断理由
<p>【M15】 センター等を活用して、社会・地域・大学間連携を推進する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>

	<p>《特記事項》</p>	
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 高大接続事業を通じた理系人材の育成 理系人材及び理系女性人材育成を推進するため、「サイエンス&エデュケーションセンター」の規模・機能を拡充し、教員向け理科教員研修については、目標値 500 名に対して令和元年度の受講者が 986 名となるなど、中期計画に掲げた目標を毎年度上回って実施している。また、理系を志す女子生徒の理系分野に対する理解を深めるため、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校 6 校と高大接続事業に関する協定を締結し、お茶の水女子大学の教員が課題研究の指導を行い、受講生が入学した場合は学部の単位として認定される「課題研究支援プログラム」を平成 29 年度から協定校を対象として実施している。(中期計画 3-1-3-1)</p> <p>○ 災害時に対応した理科実験教材の開発 災害時にも途切れない教育システムの構築を進め、普通教室でも実施できる省スペースで安価な理科実験教材の開発とパッケージ化に取り組んでいる。開発した教材を全国の被災地に展開するシステムとして、ウェブサイト上の「お茶の水女子大学理科教材データベース」に令和元年度末までに延べ 39 件のコンテンツを登録・公開しているほか、開発したコンテンツを使用した教員研修や、現地及び ICT による遠隔地コミュニケーションによる出前授業を行っている。平成 28 年度の熊本地震などの災害が発生した際には、速やかに現地の教育委員会を訪問して被害調査を行い、教材提供・教員研修・出前授業を実施している。(中期計画 3-1-3-2)</p>	
<p>小項目 3-1-4</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>【K30】 教員養成・乳幼児教育等の本学の伝統を活かし、生涯を見通した教育システムを構築するとともに、新たな乳幼児教育の提案を行う。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p> <p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>	
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 認定こども園における研究の推進 保育所型認定こども園「文京区立お茶の水女子大学こども</p>	

	<p>園」を平成28年4月に開設し、質の高い保育サービス・幼児教育の提供だけでなく、「お茶大こども園フォーラム」を始めとした各シンポジウムでの教育カリキュラムモデルの提案や、地域に向けた子育て支援プログラムの実施、主に乳幼児教育における環境の在り方やその評価方法についての書籍の出版等により、こども園での教育・実践研究を社会に発信している。また、学内の乳幼児教育現場（附属幼稚園、いずみナーサリー（保育所）、文京区立お茶の水女子大学こども園）と共同で「お茶の水女子大学3園合同研究会」を組織し、3園合同研究会の教諭・保育士などが「連携研究員」として人間発達教育科学研究所に所属することで、乳幼児教育現場をフィールドとして、大学と附属学校園が連携して研究を推進する体制の強化に取り組んでいる。（中期計画3-1-4-1）</p>
--	--

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「計画以上の進捗状況にある」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
【M17】 国際社会におけるトップクラスの女子大学として、海外各地の大学及び研究機関と連携し、国際水準の教育研究の展開、学生の留学及び留学支援に取り組み、グローバルな視点で活躍できる女性リーダー人材を育成する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「グローバル人材比率の向上」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	（優れた点） ○ グローバル人材比率の向上 海外大学との交流協定の締結や、海外短期・長期留学派遣プログラムの整備、学生の海外派遣の促進及び外国語力向上に向けた取組を行った結果、グローバル人材比率（学部卒業時に留学経験を持つ者及び外国語力スタンダード（英語：CEFR・B2レベル、中国語：CEFR・C1レベル、フランス語：CEFR・B1レベル、ドイツ語：CEFR・B1レベル）を達成する		

	<p>者の割合)は、令和元年度に44.5%となっている。なお、日本の大学における教育力に焦点を当てた「THE世界大学ランキング日本版2018」において、日本人学生の留学比率の指標で国立大学2位(全体では18位)となっている。(中期計画4-1-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 国内外の大学間連携の推進</p> <p>上智大学、静岡県立大学と共に申請・採択された、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」を活用し、国内循環型のマルチキャンパスでの留学生受入プログラムの実施や、Collaborative Online International Learning (COIL)の導入を促進し、海外の連携大学との遠隔教育と交流事業を軸とした新たな学習形態の実践に取り組んでいる。(中期計画4-1-1-1)</p>		
小項目 4-1-2	判定		判断理由
<p>【M18】 世界各国・地域の国際機関・高等教育機関等と連携し、国際社会において固有の存在感を発揮して、女性のエンパワーメントのための支援を行う。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 開発途上国における子供・女性教育支援</p> <p>開発途上国の子供・女性支援を推進するため、女子教育支援としてカブール大学(アフガニスタン)を中心に、博士課程の留学生6名等を受け入れ、就学前教育支援としてアフリカ全域及び中東の国々の人材育成を目的とした乳幼児ケアと就学前教育研修等を実施している。また、グローバル女性リーダー育成への取組を推進するため、持続可能な開発目標(SDGs)のテーマである貧困、教育、ジェンダー、平和、国際協力等について現場の視点からの理解を深めることや、国際協力に関する実践的な知識とスキルの向上・習得を目的として、教育や研究支援、啓発活動を実施している。(中期計画4-1-2-1)</p>		

お茶の水女子大学

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある 3.70 うち現況分析結果加算点 0.50
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある 3.50
小項目1-1-1 【M1】 博士前期課程では、高度な専門的知識と能力を有し、境界領域分野や未知の分野の学問を切り拓くことに意欲的な高度専門人材の育成を目指す。博士後期課程では、専門性を基盤として新しい科学の創成を目指しつつ、幅広い知識と視野を持ち、高度な研究能力を備えた先導的な人材を育成する。また、大学の枠を越えた連携により、科学技術創造立国の中核となる理工系女性リーダーの育成拠点の構築を目指す。	【4】	優れた実績を上げている 2.50
中期計画1-1-1-1 【K1】 学際的な分野における大学院教育を高度化し、グローバルに活躍する女性リーダーの育成という社会的要請に応えて、既存の男女共同参画リソース・プログラムを見直し、ジェンダーを中心とした副専攻プログラムを再構築する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-2 【K2】 「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダー育成」の教育プログラムに沿って、第2期に引き続き超領域的な課題に取り組む自主協働研究を取り入れたカリキュラムを再構築する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中期計画1-1-1-3 【K3】 大学院段階における専門教育とキャリア教育を併行させた教育プログラムを開発するとともに、博士前期課程修了者を対象とした就職支援体制を構築する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-4(★) 【K4】 理工系女性リーダーの育成拠点として、平成28年度に奈良女子大学と連携して、女性の強みを活かした生活者の視点からの工学を推進するための大学院生活工学共同専攻を設置し、新分野「生活工学」を担う人材を養成する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
小項目1-1-2 【M2】 高度な専門的知識を有し、グローバルに活躍する女性リーダーを養成する。近年のグローバル化、少子高齢化、目覚ましい技術の発展等の変化に対応し、深い教養に裏打ちされた高度な専門的知識を有し、強靱な知力、旺盛な行動力を持って、社会的課題の解決や文化の発展に貢献できる学生を育成することを目標とする。	【3】	進捗している 2.50
中期計画1-1-2-1 【K5】 幅広い教養と高度な専門的知識に基づく思考力を養成するため、21世紀型文理融合リベラルアーツ等、学生のアクティブラーニングを促す教育を実施し、複数プログラム選択履修制度を一層有効に機能させる。社会の要請に応えることのできる教養、専門的知識に基づいた高度な思考力を養成するために、学部・大学院を通して、継続した学士・修士一貫の長期のカリキュラムを組み立てる複数の学修トラックを導入する。平成30年度に生活科学部心理学科を設置し、心理学の理論と実践を系統的に学び、科学的探求力と実践的応用力を身につけた人材を養成する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-2-2 【K6】 グローバルに活躍する女性リーダーの育成という社会的要請に応えて、高度な専門的知識に基づく思考力を養成する。学生の学びの選択の可能性を広げるために、学部間の共通履修プログラムとして、ジェンダー論・男女共同参画に係る副プログラムやキャリア科目群の内容を検討し、再編する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.33
小項目1-2-1 【M3】 国際水準での教育を実施するため、教職員の教育の質の更なる向上を目標としたFD(ファカルティ・ディベロップメント)、教育プログラム、教育環境整備を行う。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-2-1-1 【K7】 国際水準の教育を実現するため、全教職員・学生参加型のFDを実施する。そのため、学内LANを用いた映像配信の仕組み(Small Private Online Course)を利用し、セミナーやシンポジウムを実施する。	【2】	中期計画を実施している

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-2-2	【M4】カリキュラムポリシーに基づき、ソフト・ハードの両面から、グローバル化に対応した教育環境の整備を行う。	【4】	優れた実績を上げている	3.00
中期計画1-2-2-1	【K8】グローバル人材育成・男女共同参画推進本部、国際本部、全学教育システム改革推進本部の下で、ACT (Advanced Communication Training)プログラム、サマープログラム、語学研修を有機的に連携させ、グローバル人材育成に向けた実践的な教育体制を構築する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-2-2-2	【K9】Language Study Commons、英語学習相談室を中心とした外国語の学修支援を実施し、これらの施設及びサービスを利用する学生数を増加させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
小項目1-2-3	【M5】国際通用性のある教育成果の評価指標を活用し、大学機関の相違を越えた教学成果比較を通じて、教育の質保証システムの有効性を高める。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-3-1	【K10】平成29年度までに、教学比較IR(インスティテューショナル・リサーチ)のデータ構築や共有を目指す連携大学グループにおける学務情報(例えば、学事暦や時間割、GPA(グレード・ポイント・アベレージ)の方法/用途、学修成果情報の提供方法等)を横断的に構造化し、閲覧できる教学比較IRのデータベースを構築して、公開・運用する。そのために、この大学間連携による協働体制を築く。平成30年度からは、国際通用性のあるデータベースの構築及び共有に着手する。かつ、学修行動調査及び授業アンケート結果のデータの共有・分析を通じて、教育の内部質保証体制を構築する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-3	学生への支援に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1	【M6】学修支援体制と学生生活の支援や相談に応じる体制を連携させ、学生の主体的学修を推進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-1-1	【K11】「新図書館構想(蔵書・コンテンツの充実、アクティブラーニングスペースの提供、知のコミュニティの形成支援を目的とした図書館の再整備計画)」に基づき、図書館や情報設備等を学習コンテンツ面・空間面・人的サポート面で充実させ、学生の能動的・多面的な学修環境を強化する。また、大学院生TA(ティーチング・アシスタント)による教育支援、附属図書館におけるLALA(Library Academic Learning Adviser)による学修支援及び教学IR・教育開発・学修支援センターによる学修相談を連携させ、学生の主体的学修を推進する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-2	【K12】高校・大学・大学院を一貫した学修ポートフォリオを開発・構築する。学修ポートフォリオに学生の主体的な学修の成果を蓄積し、これを適用して学修指導を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-3	【K13】履修単位不足、成績不振等の学修困難を抱える学生を継続的に支援できるよう、当該学科等が責任を持って、学年担当若しくは指導教員による支援体制を確立する。抱える困難の内容に応じて、学内の学修支援体制と連携して随時相談に応じ、学生が主体的に支援体制を活用しながら学修できるよう導く。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-3-2	【M7】学生のニーズに適合し、かつ、本学の学修を実質的に保障する統合的学修支援を行うために、女性のライフサイクルに沿った多様な学生の生活支援、キャリア支援、キャリア教育を進める。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-2-1(★)	【K14】第2期に引き続き、多様な学生(外国人留学生、障害のある学生、メンタルヘルス上の困難を抱える学生等)に対応するため、学生生活支援(奨学金、授業料免除、学内ワークスタディ、学生宿舎、学生相談を含む)、キャリア支援(特にインターンシップの拡充を含む)、キャリア教育(特色あるキャリアデザインプログラム基幹科目群の拡充)に係る体制を整備し、個々の学生のニーズに応じた学修支援を実施する。	【2】	中期計画を実施している	

お茶の水女子大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
中項目1-4	入学者選抜に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1	【M8】 学力の三要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)を重視した多面的な入学者選抜の在り方について研究し、選抜方法を改善する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-4-1-1(★)	【K15】 平成28年度から現行AO(アドミッション・オフィス)入試を大きく改革し、学力を多面的・総合的に評価する新フンボルト入試を導入する。定員は、従来のAO入試の定員を倍増させる。かつ、その成果を十分に検証し、特別入試をはじめ入試全般の改革に応用する。	【2】	中期計画を実施している	
大項目2	研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.25 うち現況分析結果加算点 0.25
中項目2-1	研究水準及び研究の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-1-1	【M9】 本学は女性のライフスタイルに即した支援体制を持つ特色を活かし、グローバル女性リーダーの育成、ジェンダー研究、生命科学、生活工学、人間発達科学、日本学等、大学として重点化を図る特定分野について、海外機関とも連携した世界水準の国際拠点を構築する。それとともに、多様な基盤的研究を推進する。	【3】	進捗している	2.33
中期計画2-1-1-1(★)(◆)	【K16】 グローバル女性リーダー育成研究機構(グローバルリーダーシップ研究所、ジェンダー研究所)を拠点として、平成33年度までに海外機関との連携を10機関以上で行い、女性のリーダーシップ育成と男女共同参画社会の実現に向けた研究と開発を進め、これまでの欧米型のリーダーシップとは異なるジェンダー視点に基づいたアジア型の新たなリーダーシップ像の提案、新しいグローバル女性リーダーシップ論の構築を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-1-2(★)(◆)	【K17】 ヒューマンライフイノベーション開発研究機構(ヒューマンライフイノベーション研究所、人間発達教育科学研究所)を新設し、国際的に評価される研究成果を世界に発信する拠点として、人が生涯を通じて健康で心豊かに過ごすための研究・開発、乳幼児教育・保育の実践研究、人間発達基礎研究、養育環境と子供の発達に関する長期追跡研究や発達臨床支援研究、防災・減災を含む安全・安心な社会環境構築のための研究・開発を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画2-1-1-3	【K18】 様々な学術領域において、基盤的研究の中で発展的な研究成果が見込まれる分野の研究を支援する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目2-2	研究実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目2-2-1	【M10】 グローバル女性リーダーの育成及び研究の活性化のため、国内外の女子大学、官公庁・自治体、企業と連携して、国際協同プロジェクトを通じた実践的養成を進め、世界に向けた情報発信のための体制を確立する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-1-1(★)(◆)	【K19】 グローバル女性リーダー育成研究機構において、国内外から毎年10名以上の女性研究者を招へいし、重点研究領域であるリーダーシップ、ジェンダー、国際協力、比較日本学、政治・経済学等の学際的国際共同研究を5件以上実施する。さらに、国際シンポジウムを通じて研究成果の発信を行うとともに、研究成果に対するピアレビューを実施する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-2-2	【M11】 子育て中の女性研究者支援、ライフスタイルに応じた研究者支援を継続し、研究環境を向上させる。	【3】	進捗している	2.00
中期計画2-2-2-1(★)	【K20】 第2期に引き続き、育児・介護等と研究との両立が可能となるように、子育て中の女性研究者、研究者本人又は配偶者の妊娠中及び産後休暇・育児休業後、親族の介護・看護に携わる学内研究者へ研究補助者を配置する等、継続的に研究者のライフスタイルの多様性を尊重した研究支援を行い、研究を活性化させる。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画2-2-2 【K21】 卒業・修了後の学習や研究が継続できるよう、図書館サービス(図書貸出し、学術情報利用等)を拡充する。	【2】	中期計画を実施している	
	小項目2-2-3 【M12】 研究の質を向上させるため、研究費等の学内資源について、研究への取組に応じた重点配分や研究支援を行う。	【3】	進捗している	2.00
	中期計画2-2-3-1 【K22】 研究への取組状況や研究成果、競争的資金の獲得状況に応じた研究費の重点配分や、間接経費を活用した研究プロジェクト支援体制の創設等を実施する。	【2】	中期計画を実施している	
	中期計画2-2-3-2 【K23】 研究支援を充実させるため、研究マネジメント人材(URA:リサーチ・アドミニストレーター)を配置した新組織を設ける。	【2】	中期計画を実施している	
大項目3		【3】	順調に進んでいる	3.00
社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標				
		なし	—	—
	小項目3-1-1 【M13】 大学と企業の連携によるイノベーションの創出、社会や地域が持つ課題解決等に向けて、企業、地域住民、自治体、行政機関等との連携を推進・強化する。	【3】	進捗している	2.00
	中期計画3-1-1-1 【K24】 第2期に引き続き、本学の人的・物的資源、実績、ノウハウ、知的財産等の活用や、歴史資料館における催し等を通じて、地域、企業、行政機関等と交流し、教育・研究・社会貢献に関する連携事業に継続的・発展的に取り組む。また、協定を締結した自治体や機関との相互協力を通じて、地域における女性リーダーを育成する。	【2】	中期計画を実施している	
	小項目3-1-2 【M14】 社会人教育の推進、特に社会人女性の勉学再開の支援とその成果の社会還元を行う。	【3】	進捗している	2.50
	中期計画3-1-2-1 【K25】 第2期から実施している卒業生を含む社会人向け講座(女性ビジネスリーダー育成塾:微音塾)等のカリキュラムを、社会からの要請や受講生の要望に対応して改良し、質を高める。さらに、企業、行政、教育・研究機関との連携により活動を拡大・充実させ、大学と受講生及び受講生同士のネットワークを拡充して、女性のキャリアアップへの教育・技能・意識啓発の支援体制を強化し、様々な立場における女性の上位職者を増やすことに貢献する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	中期計画3-1-2-2 【K26】 第2期に実施した「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」事業(ECCELL:エクセル)を拡充し、幼児教育・保育分野の社会人講座を、現行の学部レベルの科目から、更に大学院レベルの科目へと発展させ、自治体・地域と協働しながら、新しい子育て支援パラダイムを発信する。日本の幼児教育、教育現場における実践理論をリードしてきた実績に基づき、社会のニーズに応えるため、平成30年度に文教育学部人間社会科学科に、新たに子ども学コースを設置し、保育・幼児教育に関する理論と、その背後にある社会や文化の構造を学び、社会で活躍できる女性人材を育成する。	【2】	中期計画を実施している	
	小項目3-1-3 【M15】 センター等を活用して、社会・地域・大学間連携を推進する。	【3】	進捗している	2.33
	中期計画3-1-3-1(◆) 【K27】 サイエンス&エデュケーションセンターの機能を拡充し、小・中・高校教員500名に理科教員研修、児童・生徒5,000名に理科出前授業、一般社会人300名に市民科学・公開学習講座を毎年開講する。スーパーサイエンスハイスクール(SSH)への積極的な協力を進めるとともに、理系女子学生数増加のための方策を講じる。	【2】	中期計画を実施している	
	中期計画3-1-3-2 【K28】 災害時にも途切れない教育システムを構築し、平成31年度までに普通教室で実験・実習できる理科教育のコンテンツを開発し、平成33年度までに被災地に配布・展開できるシステムを完成させる。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

お茶の水女子大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画3-1-3-3 【K29】 教育関係共同利用拠点である湾岸生物教育研究センターにおいて、国内外の大学等との連携を更に強化することにより、海産生物の特徴を最大限に活用した新たな臨海実習コンテンツやバイオリソースを開発し、全国の大学等に提供する。	【2】	中期計画を実施している	
	小項目3-1-4 【K30】 教員養成・乳幼児教育等の本学の伝統を活かし、生涯を見通した教育システムを構築するとともに、新たな乳幼児教育の提案を行う。	【3】	進捗している	2.00
	中期計画3-1-4-1(★) 【K30】 平成28年度から文京区の委託を受けて認定こども園を設置・運営する。そこを幼児教育・保育に関する教育研究の場として、人間発達教育科学研究所と協働して、生涯発達を見据えた0歳児からの教育カリキュラムの開発、乳幼児教育・保育の質の評価方法を開発・研究し、地域の保護者対象の保育講座、保育者の現職研修の提供等、地域貢献を行う。3つの乳幼児教育現場(附属幼稚園、いずみナーサリー、認定こども園)の連携研究を進め、インターンシップの場として、保育者としての学生の資質育成にも活かされる、互恵的な関係を形成する。	【2】	中期計画を実施している	
大項目4 その他の目標		【4】	計画以上の進捗状況にある	3.50
中項目4-1 グローバル化に関する目標		【4】	計画以上の進捗状況にある	3.50
小項目4-1-1 【M17】 国際社会におけるトップクラスの女子大学として、海外各地の大学及び研究機関と連携し、国際水準の教育研究の展開、学生の留学及び留学支援に取り組み、グローバルな視点で活躍できる女性リーダー人材を育成する。		【4】	優れた実績を上げている	2.67
中期計画4-1-1-1 【K31】 学生の派遣・受入れを促す大学間の連携の強化や各種プログラムの充実を図り、学部卒業時に留学経験を持つ者及び外国語カスタンダードを達成する者(両者をグローバル人材と呼ぶ。)を合わせて23%以上とする。		【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画4-1-1-2 【K32】 留学生の受入数を増やせるよう、シラバスの英語化等の環境を整備するとともに、四学期制の改善等、学事暦の柔軟化を進め、全学生数に対する外国人留学生数の比率を10%以上とする。		【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画4-1-1-3 【K33】 外国語による授業や論文指導を拡充するとともに、英語で学位が取得可能なコース設置を平成33年度までに準備する。		【2】	中期計画を実施している	
小項目4-1-2 【M18】 世界各国・地域の国際機関・高等教育機関等と連携し、国際社会において固有の存在感を発揮して、女性のエンパワーメントのための支援を行う。		【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-2-1 【K34】 第2期に引き続き、開発途上国の女子教育・幼児教育に関する支援事業と平和構築・国際協力の人材育成を実施し、国際社会における様々な立場の女性のエンパワーメントのための実践的教育・研究に取り組む。		【2】	中期計画を実施している	

- ※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。